



地図のオレンジの○が被爆建築物です。



仁保島 散走

CYCLE ! S FORUM

広島市南区の黄金山は、昔には広島湾に浮かぶ仁保島とよばれた。江戸時代に広島藩の領主・浅野家と対馬の領主・宗家の間で婚姻があり、両家は親戚の関係となった。1815年ごろの話である。このとき対馬へ藩から派遣された船の船頭が向洋の漁師だった。彼らが対馬の漁場が豊かなことに気づき、対馬への入漁を願い出て許可され、仁保島、横浜（坂町）などの人々が対馬へ出かけたという。

仁保島が陸続きとなった今、その島の痕跡が黄金山を周回する小道にあるように思える。道はそのころの海岸線にそってつくられた、と想像してみる。こみいった路地は、自動車の進入を拒絶していて、昔のままの道だと主張している。どこも漁村の路地はせまい。だからそこには、なつかしい時間がとどまって、そこにいと、ふと、対馬へ漁にでかけた



人々の漁村のたたずまいを感じる。ここには今も漁船が係留される港がある。その時間がとどまったことは、多くの原爆での被爆建物を残したことにも現れる。広島市がリストにあげた約百件の被爆建物のうち、仁保島とおもわれる領域に十件がある。すべて木造建築である。それらは、ほとんどが寺社であって、訪れると、すっかり風雪にさらされているが、それもあの爆風の圧力にくらべれば、どうっ

てことないようにたたずんでいるのだ。

時間が重層してのこることは、広島市内では、たくさんはみつからない。ここは住宅があたりしく住みやすく造りかえられていても、信仰や道は、人々が住み続けるとそのままの姿をとどめることを発見する場所だ。破壊と復興の広島の時間のなかで、それをすこし斜めにみてきたところかもしれない。が、復興の努力のなかで失った、なにか、なつかしさを漂わせて、この路地や寺社は、それを見てきてくれていたように思う。

先日、火災により失われた邇保姫神社は、鎮座されていた丘を崩し、あたりしく土台から再建されている。この道にどのように神社はどんな新しい姿で現れるのか、そして、なぜあたりしい形をこの人々が求めたのか。重層の時間に新しい時間をかさねる人々に、昔、対馬に進出した人々の心意気を感じる道にもなってきそうだ。



ルートから外れますが、妙光寺への案内地蔵もかわいい



ルートは邇保姫神社からの紹介にします。

①邇保姫神社北部



古い道しるべ



東霞郵便局



稲荷神社



神社から左周りを紹介します。神社から R2 方面にでるとカーブミラーのある三叉路を左にはいります。R2 すぐそばの三叉路も左へ。稲荷神社が丘の上にみられます。

②北大河町周辺



このルート全体は路地をめぐる設定です。黄金山に沿うのですが、けっして登らない道をたどる、と思ってください。車の入らない路地の散策ルートです。フラットなルートを設定してます。



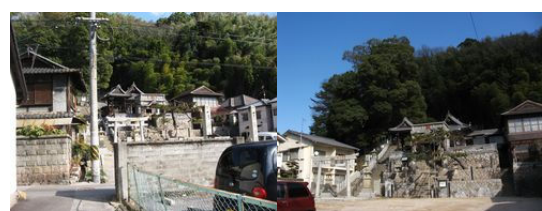
「車は通り抜けできません」なんと美しい言葉。



市信用裏の路地です。昔ここは船着場？



軽四がヤット進入



黄幡神社と地藏寺は並んで鎮座。
黄色の幡は中心をあらわします。地藏は安全安心の仏さまです。

ここにある黄幡神社には金屋子神社も合祀されています。たたら製鉄の神様です。大河という地名から、昔、仁保島の北正面に流れ込んだ猿猴川は島によって二分されて、西はこの大河へ入っていて、海岸にはたくさんの砂鉄があって、ここで製鉄と鍛冶屋がいて、船

の修理ができるところ、だから黄幡の神様が鎮座しておられる。なんて想像できませんかね。神社の階段から、すこし眼をほそくすると、ほら、船のドックではたらく人たちがみえるでしょ。いまも、商船会社の社宅なんてのが、あるのですよ。

③南大河町周辺



	<p>山城公園にある神社。ここまで海がいまも入っています。大河とよばれた流れの痕跡なんて、想像するのは、勝手に楽しい。</p>
	<p>お稲荷さんは商売の繁盛の神様ですが、柵りは鋳物をつくる「鋳刈」だともいいます。ここで鋳物屋さんが柵りでもつくってたかな？</p>
	<p>街角でリカーを引いて、こいわしをさばいて売っていたおばさんたちの町がここです。地元産のこいわしは広島のみですが、リカーおばさんは見なくなりました。駅よこの愛友市場の前では、いまも軽トラですが、売ってます。</p>

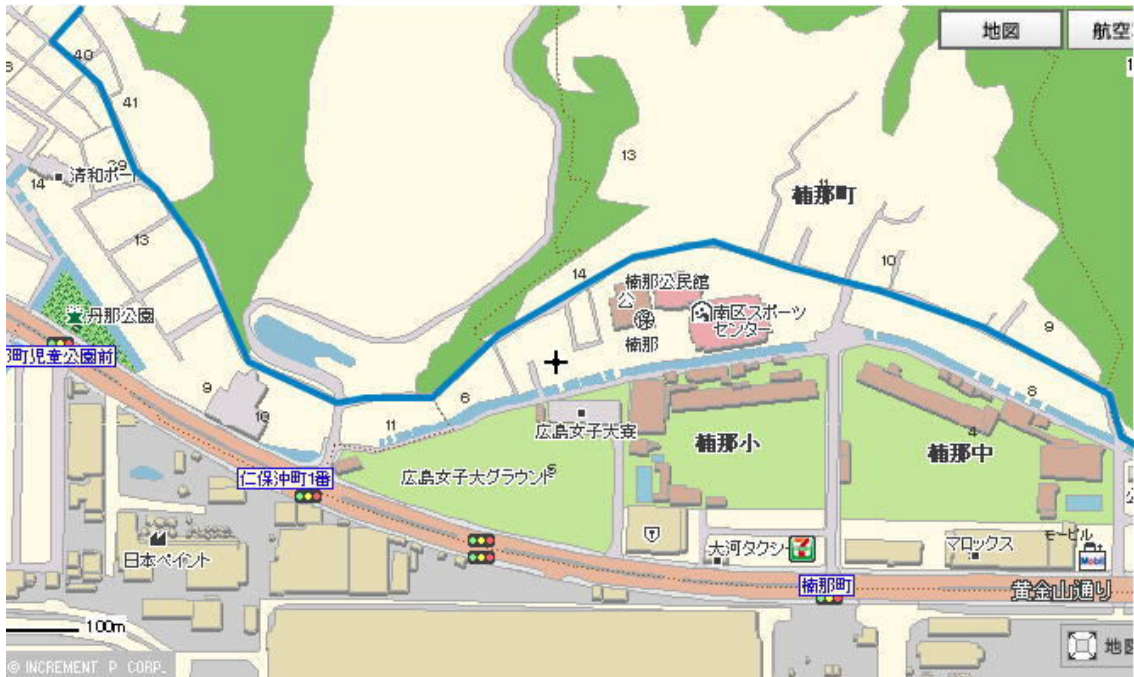
④丹那周辺



丹那の町は古道へ入ってください。戦前のは丹那説教所であった最勝寺まで、ここは登りです。最勝寺は本堂・鐘楼がのこった建物です。邇保姫の「に」は、丹生つまり水銀の「に」ともいわれます。赤い防腐剤でもあって、船には必需であったのもで、仁保・邇保・丹那と、青・丹によしといわれた奈良の、また巖島神社の回廊の色の丹生の生産地？とこれも想像して、にやっとしてます。最勝寺から、でて車道を登ると湧水があります。船への補給をおこなってきた水でしょうか。

⑤楠那周辺





尾根と尾根との間に住宅街がこみあってあります。

⑥日宇那周辺



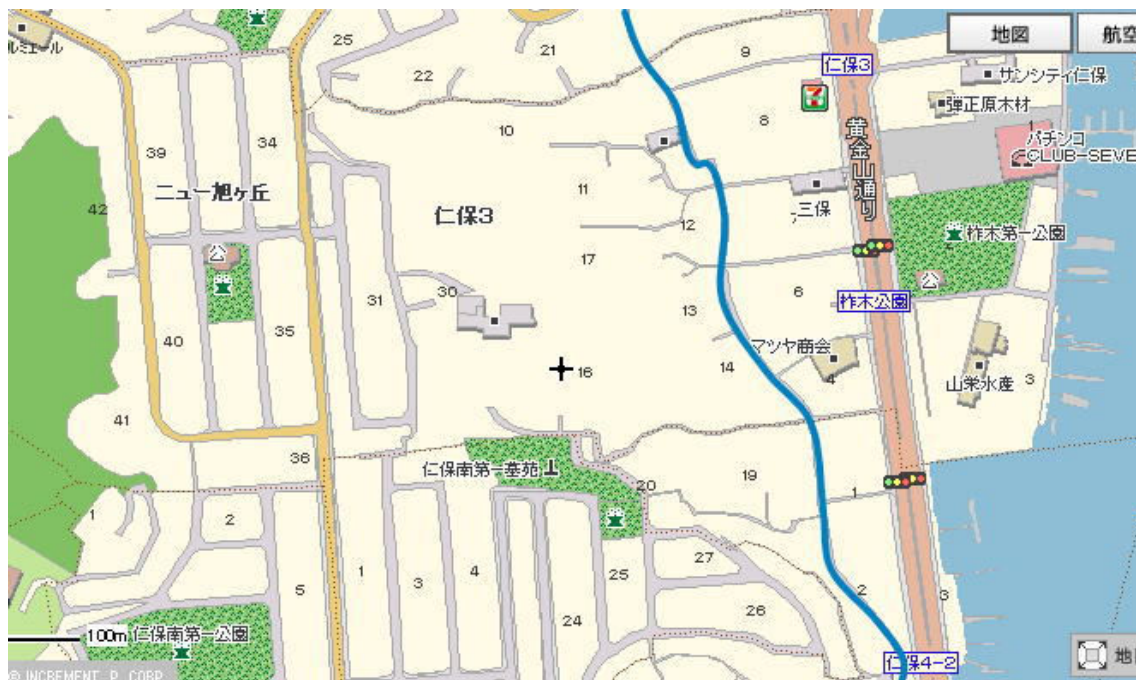
丹那・楠那・日宇那と「那」のつく町が続きます。「な」かがいいかな。新しく開発されてる住宅の車道への出口の工事で古道は失われていってます。このルートではめずらしい光景でした。日宇那の名から日向・ひぬを連想します。ここは南斜面ですから。住宅にはもってこいの場所なんでしょう。道沿いの光明寺が戦前の日宇那説教所で、被爆建築です。

⑦仁保南周辺



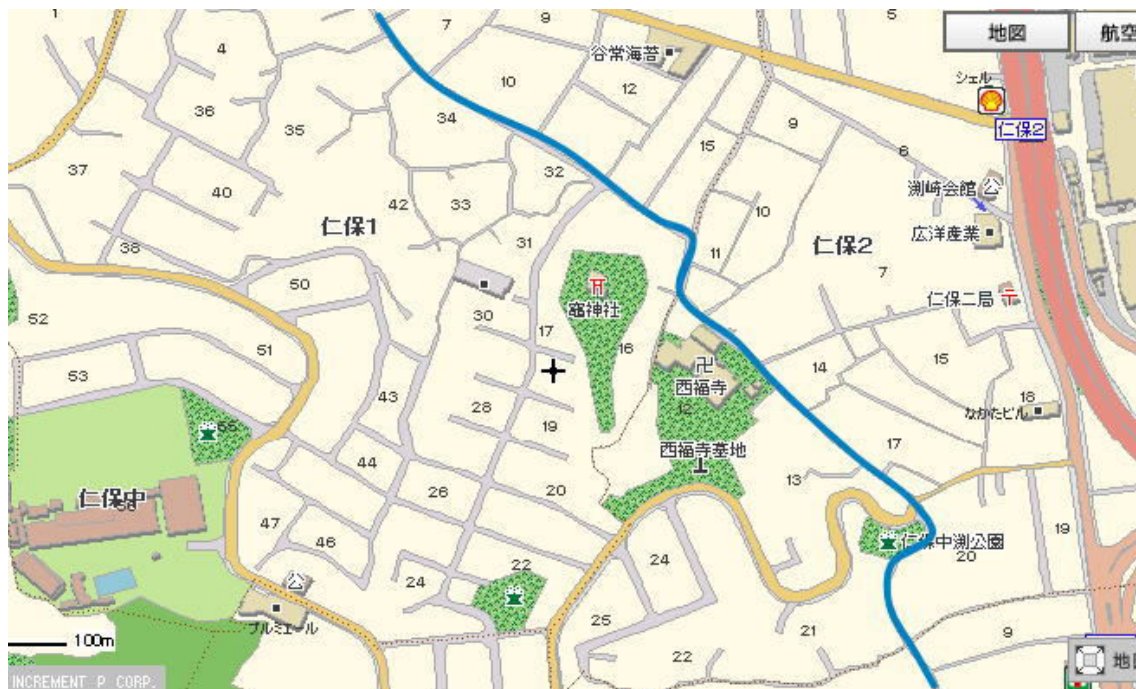
新興住宅街が石垣の上にひろがるルートですが、昔らしさは無くなっていません。海の神様の住吉神社は新しく改築されています。

⑧仁保3丁目周辺



古いりっぱな民家がつづきます。鶏がいてもよいような広い庭をもってる家は、きっと農家だったのでしょ。そんな景観が残ってます。

⑨仁保2丁目周辺



ここはすこし登りができます。西福寺坂と名づけました。土塀とお寺の石段とに囲まれていて、よい佇まいです。このあたりの道は等高線にそってあるので、ここらは田んぼか畑が、変わったのだらうと思います。その真ん中にお寺、そしてその奥の尾根の上に神社があり、日本の田舎パターンです。



瓦をすきこんだ土塀



石段上の鎮守の木々

⑩本浦周辺

浦と名がつきますから、漁村の成り立ちなのでしょう。本がつきますから、仁保島一番の集落だったはずですが。今はこの瀬保姫神社の神主さんが、仁保島にある神社の神主を兼ねておられるようです。お祭りもこの神社が最後の日程になっています。

古道が広島銀行のある交差点にでると、左へ。花屋さんの前の路地へ。





ルートから山側へ入ると、迷路です。ここに本浦説教所があります。説教所はお寺から出張してこられる場所のようです。

被爆建物については、広島市の HP のリストから。被爆建物については各 HP で、報告されています。

コースは約 7 km ほどです。